

1. 単元名 夏目漱石『ころ』

『ころ』は明治の文豪夏目漱石によって記された小説である。教科書の掲載部分は、小説全体のなかで、「先生」が「私」に過去の体験を打ち明けた遺書の一部にあたり、具体的にはKがお嬢さんに対する恋心を私に打ちあける場面から、Kの自殺後、その遺書を机に戻し、後ろにある襖の血に気づく場面までとなっている。

この場面では以下の点を生徒が読み取れることを主眼とする。

- ・「K」の告白を聞いた時の「私」の心情を読み取る。
- ・「精神的に向上心のないものはばかだ」ということばを「K」に投げつけた「私」の意図を読み取る。
- ・「K」の「覚悟」という言葉の真意、また「私」のその言葉の解釈。
- ・「K」の自殺に直面した「私」の心の動き。

『ころ』の教科書部分はKの告白にはじまり、Kの自殺までとなっているが、教科書の該当部分に入る前に、小説全体を読ませ、また、教科書採択部分を考察するうえで必要となる各登場人物の関係性の把握をさせるために、その前段としてICT活用をする部分の教科書に入る前に指導案2時間を作成した。

〈授業時の活動目標〉

- ・「私」と「K」それぞれの性格をまとめる。
- ・「K」の自殺の理由と「私」の良心の呵責について自分の考えをまとめる。
- ・「K」の告白を聞いた時の「私」の心理を読み取る。
- ・次第に「K」を「魔物」のように意識していく「私」の心の推移を読み取る。
- ・「K」の「覚悟」ということばを「私」はどのように解釈したか読み取る。
- ・「K」の自殺に直面した「私」の心の動きを読み取る。

2. 単元について

(1) 単元観

『ころ』は個人の自我と欲望の目覚めから発生する他者との葛藤と自己の葛藤、また人間関係のもつれや心理の葛藤を描く小説表現の巧緻さ、小説の魅力の発見である。

(2) 生徒観

生徒は学習の意欲はあるものの、小説を主体的な学習の中で読み解くという作業は経験値が低く、比喩的表現から登場人物の心理を読み解くことにもまだ練習が必要だと感じられる。

(3) 指導観

文学的な文章の学習においては、教師の指摘によってはじめて比喩に気づき、そこから言葉の意味や解釈がはじまることが多い。また時代設定も明治末期ということであるので、その時代設定をふまえながら、生徒の活動の主体性を尊重し、生徒相互の意見が小説の主題を考えるきっかけとなるようにICTを活用して考察することを考えた。

3. 単元の目標 学指導要領の内容 C-(1)ウ・オ(2)ウ

- ・作品を読み、自分の感想や考えを他との交流の中で深める。(関心・意欲・態度)
- ・文学的な文章における多様な工夫を読み取り、物語の展開の仕方を捉える。(読むこと)

- ・文学的な文章を読んで批評したり,それらを読んで考えたことなどを伝えあう。(読むこと)
- ・登場人物の特徴をとらえ、登場人物同士の関係性を把握する。(読むこと)

4. 単元の評価基準

関心・意欲・態度

作品に描かれる心情、場面の構成、語り手の有無などを積極的に理解しようとする。

思考・判断・技能

作品の語句の使い分けに注意して、語感を磨き語彙を豊かにしている。

対面授業の中でもICTツールを活用し、記録としても利用する。

知識・理解

作品の展開や表現の工夫について評価している。

5. ■単元の指導計画(全9時間のうちの1,2時間目またその事前課題)

事前課題 『ころ』を通読し、本の帯につけるキャッチコピーを考えて提出する。

1. K、先生、お嬢さん、私(学生)について印象に残った部分を抜き出し、Whiteboardに分類して貼り付ける。それを「Kが死を選んだ理由」「Kの自殺前後の先生の様子」「先生が死を決意した理由」「お嬢さんは本当に何も知らなかったのか」「先生の下宿とその周辺」「学生の私が背負ったもの」の六つのグループわけて再提示する。
2. 各自が興味関心を抱いた部分によって分けられたグループテーマに沿って、ClassNotebookの共同作業スペースに『ころ』のセクションを作成し、そこに項目ごとのページを設定して、生徒たちが自由に書き込めるようにする。生徒たちは相互にページを確認し、自己の意見と他の生徒を比較し主題を考えられるようにする。
3. 互いのグループの調べ学習のページを参考にしながら、先生、K、お嬢さん、学生の私 について生徒各自でまとめる。

6. 準備・資料等

・同じ出版社の文庫本『ころ』を購入させ、教科書以外に『ころ』を全文通読できるものを用意する。Teamsを最新にバージョンにアップデートさせる。

7. 本時の展開(9時間のうちの2時間目)

①1時間目

(1)1時間目の目標

- ・初読で作品の中で印象的な表現を抜き出し、他の人と比較する。
- ・各登場人物の印象的な場面を抜き出させ、White Boardに貼り付ける時にがを【「私」の「死」に対する考え方】とどうつながっていくのかを考えられるようにする。

(2) 展開

	学習活動・内容	学習形態	指導上の留意点	配時
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業環境の確認 ・Onenote ClassNotebookで作家の文学史をまとめられるものを配布する。 ・Teamsに小説『こころ』の各登場人物の印象的な場面の本文を貼り付けて読める状態にする。 	全	<ul style="list-style-type: none"> ・TeamsでClass Notebookの設定をする。 ・Class Notebookのアドインをダウンロードしてコンテンツライブラリー、コラボレーションスペースのページを配布できるようにしておく。 ・TeamsにWhiteBoardのリンクを貼り、通読後、各登場人物の印象的な部分を貼り付けられるようにする。 	30
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を黙読のうえ、3か所印象的な部分を抜き出し、それをWhiteBoardのメモに貼り付ける。 	全	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の対象とするので、自分の名前を必ずいれるように指示する ・生徒同士がどのような部分に興味を抱いたのかを知り、主題を理解するための刺激とする。 	15
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が切り抜いた部分以外に他の人がどのような部分を印象的な場面としたかを確認させる。 	全	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、WhiteBoardが整理され、先生、K、お嬢さん、学生の私についての考察をするために、貼り付けたコメントが再編されていることを予告する。 	5

② 2時間目

(1) 2時間目の目標

- ・WhiteBoardで各自が出した印象的な部分が、登場人物に関係した話題ごとに再構成する。そのグループごとに話し合い、調べ学習を行い、与えられたテーマについて、その思考の過程、話し合いの過程についても順次ClassNotebookに記録していくようにさせる。

(2) 展開

	学習活動・内容	学習形態	指導上の留意点	配時
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・WhiteBoardで、登場人物ごとに再編されたグループを確認させ、グループに与えられたテーマと、同グループの生徒がどのような部分を印象的としたのかを確認させる。 	全	<ul style="list-style-type: none"> ・「Kが死を選択した理由」「Kの自殺前後の先生の様子」「先生が死を決意した理由」「お嬢さんは本当に何もしらなかったのか」「先生の下宿とその周辺」「学生の私が背負ったもの」の各テーマについて話し合いをすることを確認させる。 	15
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループによる与えられたテーマに対する話し合いと記録をさせる。 	グ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに与えられたテーマを理解することによって、小説の主題とどう関わるのかを考える必要があることを告げる。 ・グループの全員が分担協力をしてさまざまなことを調べ、結論を導きだせるようにさせる。 	30

まとめ	・他のグループがどのように結論を導き出したのかも含め、他のグループのページを授業のはじまりに見ておくようにさせる。	全	事前にクラスノートブックの各グループのページを開いて確認しておくように指示する。 本時間で調べ足りない、結論に至れない場合は、 次回の時間で調整をかけることを予告する。	5
-----	---	---	--	---